

序文

国際教養大学学長 中嶋嶺雄

北九州市の戸畑に育ち、信州の松本市を拠点に活躍されている女性俳人ということになれば、両親が松本市出身で北九州の小倉を舞台に活躍した杉田久女を対照的に思い浮かべる方もあるのではないか。久女は清艶な句を数多く詠んでいるが、佐藤文子さんは、男女のことでもっとドライでべたつかず、それでいて鋭く意表を突くところがあるように思う。

『風のロンド』は句集ではなく、佐藤さん主宰の『信濃俳句通信』に連載された「巻頭エッセイ」を編んだものである。俳句や日常の生活に触れた、いかにも佐藤さんらしい透明な文章が、読む者に抵抗感なくさわやかな共感を催させてくれる。「風のロンド」というタイトルも素晴らしい。

本書が、郷土に根ざしたユニークな出版社として注目の郷土出版社から刊行されることの意味も大きい。佐藤さんにとっては、北アルプスが美しい信州松本が、もはや異郷ではないことの証でもある。

午後九時二十分を過ぎると、午後十一時過ぎまで無いので、会合に出た折はその九時二十分に飛び乗る。

藤の会は、九時頃お開きになるが、電車に乗る時は早目に失礼する。いつもふたりの男性が駅まで送ってくださるのだけど、少しでも早く着くと必ず寄る駅前の店がある。小さな居酒屋で、そこにはおいしいこんにやくのステーキがあり、ごちそうしてくださいさるのだ。ある時は、十分しかないのに寄って、こんにやくを一かじりして駅の階段を走ったことがある。送ってくださった男性たちも一緒に走った。飛び乗った電車の窓からホームを見ると、いつまでもひとりの男性が立っていた……。

「ありがとう、ありがとう！」と、私は心の中で叫んでいた。

やはり駅は、出会いと別れの舞台である。

(二〇〇二・三)

## 北アルプス

松本平から見える北アルプスの嶺々。透きとおるような青い空に浮かぶ山脈は、二月から三月が一番美しいと思う。それも早朝、朝焼けを全身に浴びた北アルプスの勇壮な姿は、なんとも言い尽くせない。

松本平に住む人たちは、この山の姿を愛する。インタビューの仕事で、よそのお宅を訪問する機会が多いのだが、たいていのお宅の応接間には山の絵か写真が飾ってある。それに、窓からは美しい北アルプスが一望できるのである。外にも北アルプス、窓からも北アルプス、そして壁には山の絵……。

信州に住みはじめた頃、私にはどの山も同じ姿に見えた。今思えば信じられない話だが、ほんとうにそうだった。それより山に囲まれているという圧迫感は、どうすることもできなかった。

松本平の真ん中で（和田か神林あたりかしら）、たとえば大きな声を出しても、声は平で渦

をまくだけだ。そんなのは嫌だ。いつかこの平を私は脱出したいと思ったものである。

ところが最近、それらの山々に私は見守られているという心境になった。

北アルプスの中でも一番美しいと言われている常念岳も眺める角度によって、眺める場所によってその姿はさまざまである。城山公園の展望台、芥子坊主<sup>けしぼうず</sup>の山頂、東山の山麓線など、それぞれ趣がある。

先日、前東京外国語大学学長の中嶋嶺雄先生が、松本へ会議で帰省された折、三十分ほどお目にかかる機会があった。「花いっぱい運動五十周年記念誌」の原稿をお願いしたので、その説明のためにお会いしたのだが、先生は

「今日はとても山が美しいので、ちょっと見にいきましょう」

と中山あたりを案内してくださった。

「常念岳のすぐそばに鍋冠山。その横には蝶ヶ岳、槍ヶ岳がほんの少し見えますね。大滝山、少し西穂高も見えますね。その奥が奥穂高です。常念岳の北の方は大天井岳、燕がうしろの方にあります。そして手前に有明山があります。さらに餓鬼岳、針ノ木岳、蓮華岳、爺ヶ岳、鹿島槍、五竜、唐松、白馬三山と続いているのですよ」

北アルプスの全ての山の名前を、中嶋先生はご存知だった。さらに、先生はそれらの山のほとんどに登っておられるとのことだった。

松本平に住んでいても、山の名前を知らない人が多いし、ましてやそれらの山に登った人も少ないようである。

確かに、毎日、山を眺めていてもその名を覚えようとしていなかった。ただ美しいと思うばかりだった。

私は教えていただいた山の名前を手帳に書きとり、機会あるごとに、その頁をめくって山の名前を覚えるようにしている。

もう山は恐ろしくない。山は私たちを見守っている。

(二〇〇二・四)

郷土出版社 定価1,680円 (本体1,600円)  
ISBN4-87663-702-4 C0095 ¥1600E

# 風のロンド

俳句のある生活を愉しんで

# 風のロンド

俳句のある生活を愉しんで

佐藤文子

## 信州を代表する女性俳人 珠玉の初エッセイ集

北九州から信州へと移り住み、  
俳句結社の主宰者として  
二十年にわたり活躍してきた著者の、  
日々の生活や思いを凝縮

郷土出版社 定価：1,680円 (本体1,600円)

佐藤文子

郷土出版社

### \*目次より

自己との闘い  
季語に身を置く  
平明にして深く……  
長距離ランナー  
表俳句と裏俳句  
美しい日本語  
見える俳句と見せる俳句  
存在感のある人に  
「問」の美学  
俳句と短歌  
好奇心  
リルケと俳句  
無になる  
サイトウ・キネン・オーケストラ  
北の国にて  
透明人間  
大きなバッグ  
潜在意識  
生きていてこそ  
小さな夢が現実  
徘徊する俳人たち  
俳句の将来 (穴井先生を悼む)  
サン格拉斯の女  
母を見舞う  
言葉の機微  
和の美  
忘れかけていたもの  
雪国にて  
浄友  
北アルプス